

平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果について

国立大学法人評価委員会が実施した国立大学法人等の「平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果」が文部科学省から公表されました。

その中で、平成26年度決算において当期総損失が発生していることについて、財務マネジメント体制の確立、大学ガバナンス体制の強化に努めることが強く求められております。

本学としては、評価結果を厳粛に受け止め、大学ガバナンス体制の強化に全学一体となって取り組み、財務内容の健全化及び社会の信頼回復に向けてあらゆる面で努力してまいります。

具体的には、既に、11月1日付けで外部から財務担当理事を任命致しました。

また、現在、会計規程を全面的に見直し、予算、人員管理等に関する事項を審議するため、新たに財務委員会を設置する予定であります。

今年の4月から、月ごとの財務データを、毎月、学内の各委員会で公表し、経営状況を「見える化」しました。

一方、病院では、タスクフォースにより在庫管理の徹底、後発医薬品の使用促進、医療材料費の節減、光熱水量の節減などに努めております。そして、大学病院としての更なる先進医療を進めるため、病診・病病連携などによる外来・入院患者さんの獲得、稼働率の向上などに努めつつ、早急な財務内容の改善に向け、抜本的な財政改革に取り組んでまいり所存です。

平成27年11月6日

国立大学法人旭川医科大学長 吉田 晃敏